

都市づくり計画
の住民意識調査

新総合計画のための市民アンケート結果から

市の将来人口は五万人が理想

昭和五十三年スタートをめざす留萌市新総合計画は、人間尊重と市民生活優先を基調として、本当に豊かで調和のとれた新しい留萌の実現を自覚して、長期的視点から市の理想像を設定、ビジョン実現のための総合的な施策をまとめるものです。この計画を策定するにあたって、その核をなすのは市民の声です。留萌の将来は、この地域的特性を十分に見つめた上でどんな方向をめざし、どんな方法で暮らしを高めるべきか——これらの点を考えた上で二世紀の新しい留萌づくりの指標を策定するための基礎として「留萌市都市づくり計画」についてのアンケートを、さる八月に実施しましたが、その結果を特集してみました。

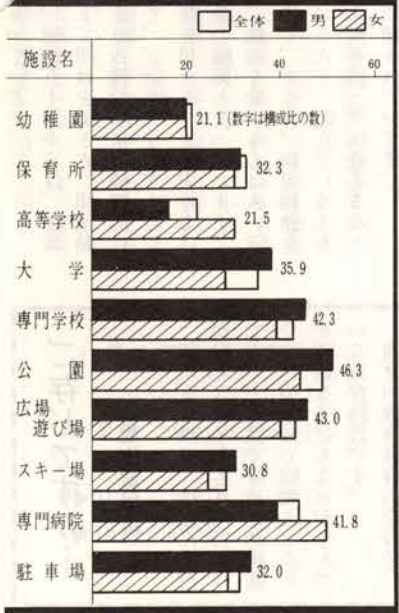
この項は現在、留萌に住んでいる市民が留萌市全体をどう考えているかを見たもので、いわゆる日常生活環境を主としたものである。右の図の①は自然についてであるが、よい方であるが四一割であるが、反面あまり恵まれていない、

1. 市全体の印象について

Table with 8 questions and 3 columns of responses. Questions cover natural environment, industry, disaster safety, job opportunities, education, and infrastructure.

③では交通事故や災害、犯罪等について比較的安全と考へる人が四五割、この程度ならどこの都市でもあると答えた人四四・六割で全体が八九割を占めており、今後企業誘致等による公害等の考慮も含まれるが、災害が少なく安全な都市であるという受け止め方が大半である。④は就労の機会、職業の選択自由について見たものであるが、実に八二・九割が好条件の働き口がなく、就労等の切望していることがよくわかる。今後の留萌づくりの最大の課題といえる。⑤は教育環境を見たもので、大変よいとだいたい整備されているを加えると七九・六割の高率を占めており、教育環境への安心度は高いようである。

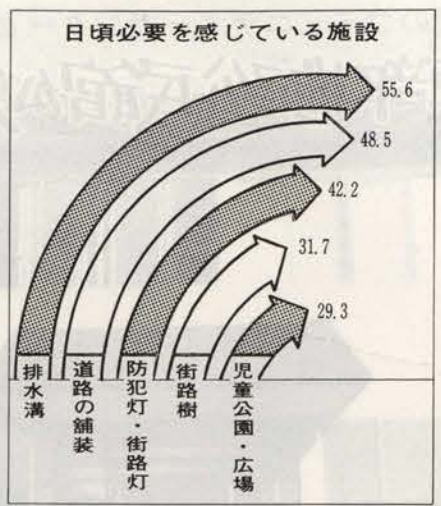
市民が不足と感じている施設



現在、市民が不足していると思う施設について見たものであるがトップは公園が四六・三割を占め次いで広場や駐車場など、市の地形的に比例した結果が出ている。また、教育の中で専門学校が大学を上廻っていることも考慮しな

要望高い公園整備と舗装

次に、身のまわりの環境について回答してもらった。中でも、日頃必要であると感じている施設をあげてもらったところ、



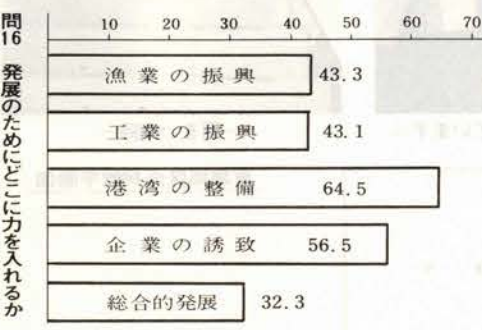
ろ、左上のグラフ(数値の高い順五位までとした)が示すとおり、排水溝がトップを占めた。高低のバランスが高い留萌の地

域的條件は、終末処理の不十分の指摘と思われる、これらの施設の整備が急がれる。次いで道路舗装、防犯街路灯とあり、今後この実現が市の居住環境の快適さを計る物差となるように思われる。

留萌市新総合計画の策定にあたり、市民の意識を把握し、結果を同計画に反映させるための調査である。

都市づくり計画 アンケートの概要

調査の目的、調査の方法、調査対象者、回答者の分析



問12では、現在の居住地に、今後も住み続けたいか、いわゆる永住居住度を見たが、住み続けたいが五八・二割と大半を占めているが、移るめどがない、他へ移りたいをプラスすると四〇割を上廻る。

Table with 4 questions (問12-15) and their respective data points regarding housing and development.

年齢別では二十歳と三十九歳が住みたいと移りたいが半々を占めている。しかし、十年以上の居住者となると、住み続けたいと答える者が高率を占める。

ものであるが、住みやすい、まあ住みやすいをプラスすると八四割の人が住みやすいという印象をもっていることがわかる。特に、十年以上の居住者は、圧倒的に住みやすいと答えている。